

SYOHEI ニュース 令和7年7月号

国民健康保険まごころ病院の概況

所在地 〒023-0401
奥州市胆沢南都田
字大持 40 番地
TEL
0197-46-2121
FAX
0197-46-2203
URL



<https://www.city.oshu.iwate.jp/magokoro/index.html>

E-mail magokoro1@city.oshu.jp

診療開始年月日 平成7年1月31日

標榜科 内科・外科・小児科・整形外科・

消化器内科・循環器内科・歯科口腔外科

許可病床数 48 床

(一般16床 地域包括ケア32床)

看護の体系 一般病棟入院基本料 10:1

診療職員数 (R7.4.1 現在)

職 種	正 規	正規以外
医師	6	0.61
歯科医師	3	0
薬剤師	2	0
看護師	29	8
その他の技術職員	12	11
事務職員	3	7
その他	2	2
総数	57	28.61

主な設備の概要

内科：80 列 CT 装置・MRI (1.5T)・内視鏡大腸ビデオスコープ・汎用超音波診断装置・血圧脈波検査装置・多用途心電図解析装置・多項目自動血球数装置・骨密度測定装置・関節鏡・デジタル医用画像システム・携帯用睡眠時無呼吸検査装置・人工呼吸器

歯科：フリーアーム・手術機器滅菌装置・鋳造機・歯科技工用ユニット・半導体レーザー手術装置・光重合器

勤務医師 6 名：歯科医師 3 名

職 名	医 師 名
院長兼診療部長兼内科長兼循環器科長	伊藤 正博
副院長	八 鍬 誠
医務技監	及川 雄悦
内科医長	小幡 紘
内科医師	井上 俊樹
整形外科長	今淵 隆誠
歯科口腔外科長	角田 耕一
歯科医長	遠藤 寛樹
歯科医長	柳谷 隆仁

健康福祉活動

医科：幼稚園医・特定健康診査・学校医・尿・便検査・貧血検査・結核精密検査・特養老人ホーム「ぬくもりの家」嘱託医・特養老人ホーム「さくら」嘱託医
歯科：歯科検診・う歯予防検診・訪問口腔衛生指導

朝の院内放送

まごころ病院長 伊藤 正博

当院は、農業が主産業である胆沢地域に密着した 48 床の小規模病院です。小さいということは、患者さんと職員、また職員間の距離を近づけ親しみやすさが生まれやすい利点があります。

『ピンポンパンポン（上がる）、本日は〇月〇日〇曜日、おはようございます…』、当院には 8 時 45 分に職員持ち回りの朝の院内放送があります。内容は自由、自分で考えたコメントやエピソードを話してもらっています。

名前を名乗ることは要件としていないので、この声は誰？と聞き入ることもあります。その内容は…、息子からの母の日のお祝いのお話、大谷翔平のマンホール設置の話、目玉焼きには何をかけて食べる？、子供の部活のおっかけが最後になってしまう話、等々。各職員からの個性豊かなコメントに、ほっこりした気持ちになり 1 日が始まります。

この取り組み、患者さんへのささやかなサービスなのですが、それと同時に職場の“心理的安全性”を高めるちょっとした工夫でもあります。

職員同士の声を互いに認め合える職場は安心できる勤務環境になるのではと期待しています。

またそうなることで患者さんにとって安心感のある病院として感じてもらえればと考えています。

当院に来てくれた研修医や学生さんにも朝の一言をお願いしています。奨学生の皆さん、当院で勤務となった際には、ユーモアのある一言、お待ちしております。

『…、それではこれから本日の診療を開始致します、ピンポンパンポン（下がる）』。

大谷翔平選手の成績ボード (R7.6.25 現在)

試合数 78 打率 289③ 本塁打 27① 打点 51⑤ 盗塁 11⑥ 得点 77①
6/4 5 月月間 MVP 受賞 6 度目、6/14 MLB250 号、6/25 日米 300 号

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和7年6月26日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町 3-1 TEL0197-25-3833
市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第63号



虫送り

＝奥州市胆沢若柳字市野々＝

広報おうしゅう H28.7 奥州遺産No.70



1

- ① ほら貝を合図に「送る送る送るやー、何の虫送るやー、稲の虫送るやー」と唱えながら歩く
- ② 出発点は山神碑前。ルートを変えながらも虫送りは続けられている



2

虫送りは、害虫の駆除と豊作を祈願する農耕行事で、戦前まで全国各地で見られたが、農薬の普及などによりその多くは途絶え、現在、市内では市野々集落でのみ続けられている。

田植えが終わった6月初旬の夕刻、集落の住民約50人が「焼石クアパーク ひめかゆ」近くの山神碑を参拝。

虫を集めた、実を虫に見立てたというクワの葉とのぼりを手に虫送りの言葉を唱えながら集落内を練り歩き、クワの葉を胆沢川に流して虫を集落の外に送り出す。

かつては日が暮れてから子供だけで行われていたが、少子高齢化が進む中で「集落の伝統行事を途絶えさせてはならない」と、子どもから大人まで地域一丸となって取り組んでいる。

少しずつ形を変えながら受け継がれてきた市野々集落の虫送りは、豊作への祈りとともに地域住民の心をつなぎ、古里への愛情を育んでいく。



3

- ③ 練り歩く声を聞きつけた集落の人々は、門口に立ち菓子を差し入れる

- ④ 昔は団子を刺した桃の木の枝が門口に置かれ、子どもたちはそれを食べるのを楽しみに参加していた



4

